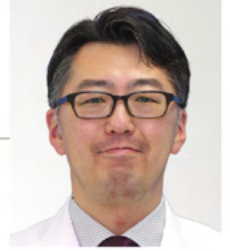


## 委員会報告 [広報委員会] 広報委員会の活動と今後の方針



松坂 方士 JACR理事

弘前大学医学部附属病院

田淵 健 東京都立駒込病院

片山 佳代子 群馬大学 情報学部

森島 敏隆 大阪国際がんセンター

杉山 裕美 放射線影響研究所 疫学部

阪口 昌彦 大阪電気通信大学

広報委員会では都道府県がん登録室や院内がん登録室、がん登録を利用した研究の紹介、がん対策の今後に関する提言などをご寄稿いただき、ニュースレターを通して会員の皆さまのがん登録運営に役に立つ情報を発信してきました。また、協議会ホームページの内容を見直し、がん対策の基盤であるがん登録の重要性をアピールすることにも努めています。

がん登録等の推進に関する法律の施行に伴い、都道府県は精度向上の一步先であるデータ利用への対応が必要です。また、当協議会が進めているJ-CIP事業に代表されるように、がん登録データはがん対策のさまざまな場面で重要な鍵となりますので、広報委員会ではこれらについて情報提供して参ります。また、ニュースレターでデータの解釈に役立つ統計の知識などを連載して、実務者や行政担当者が統計資料への理解を深めることをお手伝いすることで、当協議会の活動が今後の都道府県のがん

対策にさらに貢献できるように努めていきたいと考えています。

先日の学術集会でも院内がん登録からの優れた研究発表や活動報告が目立ってきました。今後はますます協議会内での院内がん登録に関する情報交換が盛んになってくるものと予想され、そのプラットフォームとしてニュースレターや協議会ホームページや会員専用ページを活用したいと考えています。また、院内がん登録と全国がん登録の担当者・実務者レベルでの意見交換の場は、当協議会でしか提供できないものと自負しています。これからさまざまな企画を通じて、広報委員会が全国がん登録と院内がん登録の協調的な発展のお手伝いをしていきたいと思っています。

広報委員会ではTeams等を利用して適宜意見を交換しています。会員の皆さまから「このような情報が欲しい」というご意見をいただければ、ぜひ検討させていただきたいと考えております。

私だけの治療法をください。

同じ病気だとしても、  
私たち患者はそれぞれ別の人間です。  
病気の性格も、  
薬の効き方も、みんな違う。  
治し方は、人の数だけ  
あるべきじゃないですか。

一人ひとりの遺伝子情報に基づいた  
「個別化医療」の実現に貢献しています。

創造で、想像を超える。

すべての革新は患者さんのために

中外製薬

ロシュグループ